

松下 誠の

## **2割の勝組になる7つの法則**

～あなたの投資資金を守るための心構え～

## 2割の勝組になる7つの法則

### 著者について



著者：松下誠

1967 年生まれ。福岡県出身。富山医科薬科大学卒業後。製薬会社勤務をへながら、個人投資家として、投資はじめる。開始から2年で個人資産1500万円を失うも、その後、簡単な利益の上げ方を発見し、それから、利益を上げ続ける。現在は投資家として独立。彼の、“感情コントロール法”や“価格変動予測法”などの指導を受けた個人投資家のほとんどが利益をあげるようになっている。  
現在1500名を超える会員に対して、FXウィークリーレポートを配信している。

### ■ [松下FXウィークリーレポート 30日お試し \(72000円相当の無料DVDつき\)](#)

松下誠が、あなたの代わりに一日中パソコンの前に張り付いて、サイクルセオリーによる科学的検証と膨大な経験に基づく判断をそのまま、あなたの手元に届けるプログラムです。つまり、松下誠の頭の中をそのまま覗き込めるプログラムです。

## 目次

- ◇ はじめに
  
- ◇ 第1の法則 はっきりとした目的を持つ
  
- ◇ 第2の法則 上手に損する
  
- ◇ 第3の法則 小さく取引する
  
- ◇ 第4の法則 ルールを作る
  
- ◇ 第5の法則 人に聞く
  
- ◇ 第6の法則 取引に学ぶ
  
- ◇ 第7の法則 継続する

## 特別付録

## 2割の勝組になる7つの法則

### ◇ 松下誠の取引

1. 思い出したくもないデビューでの大失敗 ～灯油編～
2. この取引から松下の復活は始まった ～小豆編～

### ◇ トレンドとは ～取引において最も大切と思われる考え方～

1. トレンドに乗って上げた大きな利益 ～トウモロコシ編～
2. トレンドに逆らって被った大きな損失 ～灯油編～

### ◇ おわりに

### ◇ はじめに

私は投資で2年間に**1,500**万円の損をしました。

当時我が家の全財産でした。

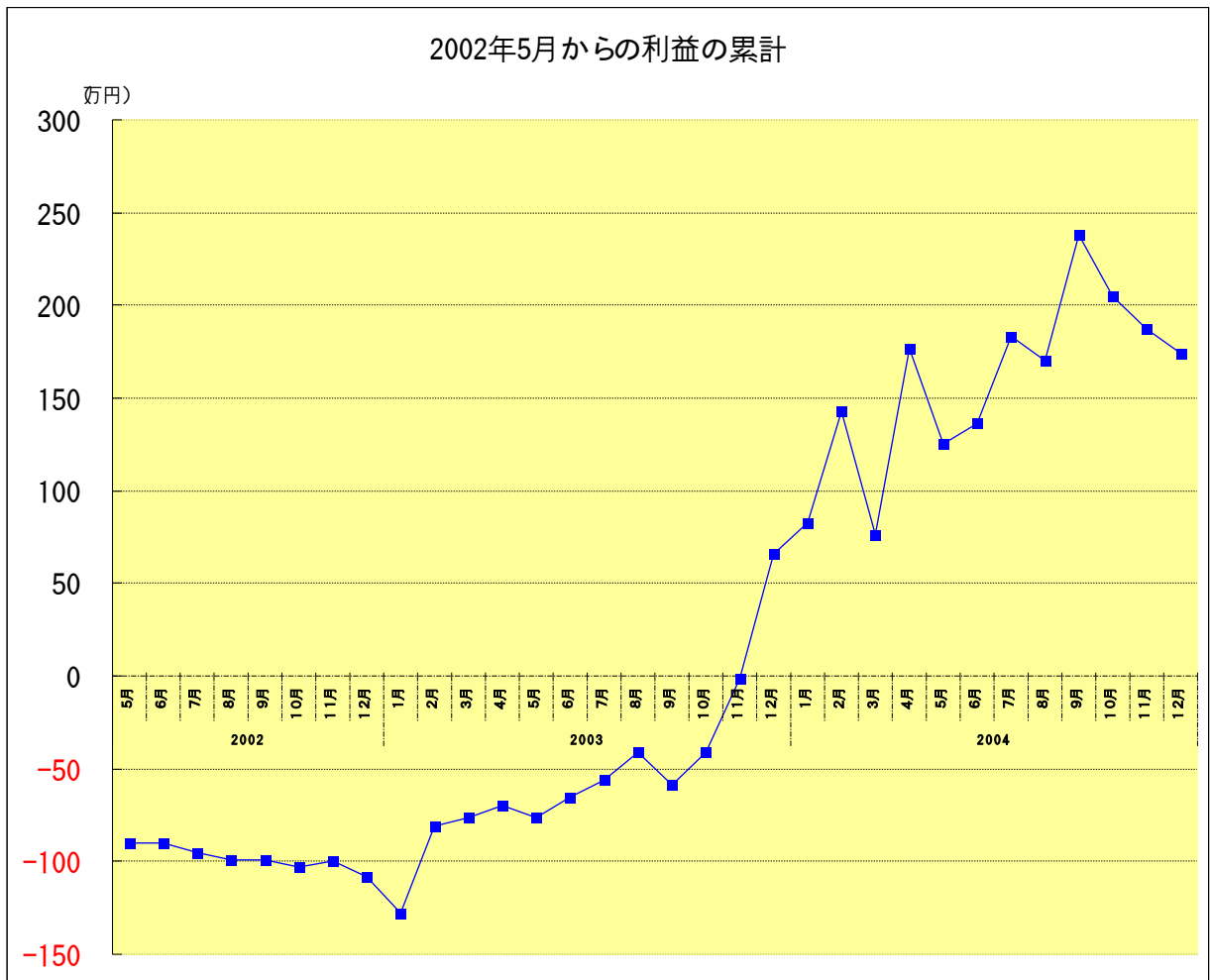
その後私はどうなったのか・・・

## 2割の勝組になる7つの法則

3年目（2003年）に商品先物取引で174万円の利益を上げました。年率にして34%です。

4年目（2004年）は115万円（23%）。

下は2002年5月からの利益の累計をグラフにしたものです。



2年目と3年目の間に一体何があったんだ？

あなたは思うでしょう。

実は・・・

何もなかったんです。

ただちょっとしたコツを掴み、それをひたすら実践してきました。

それがこれからお話しするノウハウです。

これを読んでいるあなたは今何らかの投資を行っていますよね？

あるいはこれから行おうとしている。

それは当然利益を上げるために行う投資です。

じゃあ利益ってどうしたら上げられるんでしょう？

本気で考えてください。

そうすれば利益を上げることができます。

本気で利益を上げたいと思い、そして様々な試行錯誤を重ね、それでもまだ利益が出ずに、何かを学びたいと思っているあなたに、これから私が築き上げてきたノウハウをお話します。

このノウハウを理解し、利用するのはあなたです。

あなた次第で利益の可能性は広がります。

ぜひ身に着けて、活用し、そして利益を上げてください。

そしてその先にある、楽しい人生を歩んでいただきたいと思います。

あなたに直接伝えたいため、音声も作成いたしました。

<http://www.123profit.jp/7points.mp3>

## 松下 誠

\*注：私の投資手法はテクニカル分析と呼ばれる手法であり、ファンダメンタル分析には触れていないことを、おことわりします。また、本文中に引用されるグラフ等は商品先物取引の銘柄から引用されていますが、本質的には株式も為替取引もチャートの形状は変わりませんので、細かい金額の計算等は考えずに、そういった視点から見ていただくよう、お願い致します。

### ◇第1の法則 はっきりとした目的を持つ

あなたは何のために投資をしていますか？

何だいきなり、と思われるかも知れませんが、よく考えてください。  
なぜでしょう。

- ・とにかくお金が欲しいから
  - ・副収入として
  - ・資産運用の一部として
  - ・一発大儲けをしたい
  - ・小遣い稼ぎ
- 
- ・特になし

別にどんな目的でもいいんです。  
とにかく、はっきりとした目的を持ってください。

ただし「特にない」というのはダメです。  
これで利益を上げられる人も、中にはいるでしょう。  
それはごく一部です。ぜひはっきりとした目的を持ってください。

「なぜ目的が必要なんだ？」

そう思いますか？

それではその前に、1つ考えてみましょう。

世の中の一般の投資家の大半は、損をしています。  
私も実際そうでした。

ではなぜ、損をするのでしょうか？



色々な意見があると思います。

- ・ 損失を受け入れられないから
- ・ 感情に流されて、判断が遅れるから
- ・ 勉強が足りないから
- ・ 情報の扱い方が下手だから

これは、私がセミナーの時にお聞きした、意見です。

なぜ損をするのか、分かればまだ問題は軽いです。  
なぜ損をするのか、分かってないのは大問題です。  
これでは、問題は解決できません。

さて、なぜ損をするのかの答えですが、  
確かに、セミナーで出た意見のように、損失はなかなか受け入れられませんし、情報  
の取り扱い、どういう風に勉強するかは、なかなか分かりません。  
それになんと言っても感情的になって、いいことはありません。  
すべて、損をする原因だと思っています。

ここで、もっとも大事なキーワード、それは“感情”です。

そうです、“感情”です。

何事についてもそうですが、感情が高ぶると知性は格段に下がります。  
その結果、取引はひどいものになります。  
投資において、感情は必要ありません。

私も、毎日その感情との戦いです。  
感情が高ぶっては抑えて冷静になり、高ぶっては抑えて冷静になり、結構キツイものがあります。  
本当にタフになります。

でもそれを乗り越えなければ、利益は生まれません。  
投資で成功するために必要なこと、それは感情のコントロールです。

すごく大切です。

本当に難しいです。私も今でもまだまだ出来ていません。  
出来ていなければ損をします。

ではここで「はっきりとした目的を持つ」と、どうなるでしょうか。  
目的を持っていると、目先の小さなことにくよくよすることが、少なくなります。

すなわち、取引において損失が出たときも、あまり感情的にならずに次の取引があるからと、損失を素直に受け入れることができます。

はっきりとした目的を持っていると、感情的になることが、少なくて済みます。  
はっきりとした目的を持っていると、損失に対して強くなれます。  
そして損失に対して強くないと、利益を上げていくことはできません。

ぜひ、はっきりとした目的を持ち、損失に強くなってください。  
「目的を持つ」ということを軽く考えないでください。  
すごく大事です。

第1の法則は「はっきりとした目的を持つ」です。

## ◇第2の法則 上手に損する

「上手に損する」、これも本当に難しいです。  
これができたら、もう利益は手にしたも同然です。

第1の法則でも言いましたが、取引において損が出始めると、感情が高ぶります。

ドキドキして、いてもたってもいられなくなります。  
損失がどうなるのか気になってしょうがありません。

私も毎日、ドキドキしながら過ごします。  
あんまり体にいいとは言えません。

仕事は手につかなくなりますし、人との会話も上の空になります。  
そのくせ、損失を確定して、問題解決しようとせずに、ただただ損が消えてくれと  
祈るばかりです。(私もそうでした)  
その後どうなるか？  
ご推察の通り、損はさらに大きくなり、ますます確定できなくなります。  
もう逃げ出したいだけです。

でも逃げられません、当たり前ですよ。  
さあどうしましょう？

もうこうなると、何も出来ません。  
ただただ、いつか値動きが止まることを祈る日々です。

## 2割の勝組になる7つの法則

運よく止まって、損失が回復することもあるでしょう。

でもそれはごく稀です。

大抵は精神的に、あるいは資金的に我慢できなくなり、ある日損失を確定します。

その損失はあなたの投資に致命的なダメージを与えます。

実際にいくつか例をお示しします。



チャート（時間の推移とともに価格の変化を示したグラフ）は、東京トウモロコシのチャートです。

矢印で示した日は**2004年4月21日**です。

これは一つの重要な日です。

その前の安値、**3月31日**から線を引いていますが、その前回の安値を下回った時点で、いったんトウモロコシの価格は、いくらまで下がるか分からなくなるのです。  
(なぜそのような考え方ができるのかについては、ここでは紙面と時間の関係上説明できません。そのことを、とことんお知りになりたい場合は、別途勉強していただきたいと思います。)

実際には、**5月18日**までほとんど止まることなく、下がっています。

もし**4月21日**以前にトウモロコシを買っていたら・・・

損失は大きくなるばかり、途中損失を確定しなければ、**5月18日**まで全く止まることなくです。

例え運よく**5月18日**を耐えて、持ち続けたとしても、価格は**6月2日**まで戻りませんが、結局**4月21日**の価格にさえ届かず、また下がります。

そして5月18日よりさらに安くなり、損失はさらに大きくなる・・・

いかがでしょうか？  
もし買っていたら・・・

こういうこともあるかも知れません。

4月21日： あーっ、3月31日の安値を下回っちゃた。確かこういうのってやばいんだよなー、どうしようかな。（この時点で損失が出ています。）でも資金にも余裕があるし、今回は頑張ってみよう。

5月18日まで やばいな、やばいな、全然止まらないどころか下がり続けてるよ、大丈夫かな。やっぱり4月21日に損失を出さなきゃいけなかったなー、くそー。でも今確定するとすごく損しちゃうし、これだけ下がったんだから、もう上がるだろう。ここまで頑張ったんだから、覚悟を決めよう。（何の覚悟を決めるんでしょう？）

6月2日まで やっぱりなー、下がり続けるなんてことはないんだよな。さーてど

こまで上がるかな。損が消えればいいかな。

6月2日から あれ、また下がり始めちゃったよ、でも大丈夫だろ、前も耐えたし、  
今度も頑張ろう。

いつしか あれ、あれ、あれ。どんどん、どんどん下がるよ、どうしよう。いくら  
まで、資金持つのかな、もし持たなかったら・・・

そして、いつかは損失を出すでしょう。その間トウモロコシの価格は永久に4月  
21日の価格に戻ることなく。

これはあくまでも想定ですよ。私がこうだったと言うんじゃないですからね。  
念のため。

さてこの時点で損失はいくらになっているでしょう？  
想像が付きませんよね。



## 2割の勝組になる7つの法則

ただ確かなことは、小さい損失を確定できずに、着実に損失が増えていったこと。そして損失が増えたことで、ますます冷静な判断ができなくなったこと。

これは、一つの想定と言いました。  
ですが、実際によく起こることです。

この例え話で言うと、4月21日から5月18日までで、損失は約30万円増えます。

これは証拠金6万円取引する、1枚（最小取引単位が1枚で、株で言う100株とか1000株という感じと同じです）当たりです。

どうでしょうか？投下している資金（実際には証拠金のみが必要とされています）の5倍の損失が拡大するわけです。

かなりキツイですよ。

私の話ではないと言いました。

でも私は同じような失敗をたくさんしました、それが1,500万円の損失につながったわけです。

よく考えてください。

もう一つ例を出してみましょう。  
先程は買った場合を想定したので、今度は売った場合を想定してみます。

(これはカラ売りと言って、株式の信用取引にも見られますが、実際には買っていないものを先に売り、後から買戻して、損益を出す取引です。単純に、買う場合の取引と順番が入れ替わるだけと思って、理解していただければいいかと思えます。)

さて例ですが、東京ガソリンで見たいと思います。  
チャートは次に示されています。

## 2割の勝組になる7つの法則



矢印で示した日は**2004年9月27日**です。

これは売った場合の想定と言いましたので、先程のトウモロコシとは逆に考えていただければ幸いです。

さてこのチャートで、**9月27日**に前回の高値、**8月23日**を上回っています。

これでガソリンはいくらまで上がるか分からないことになります。

9月27日より前に売った人は、少なくともこの日には損失を確定しないと、その後、価格が大きく上昇しています。

さっきのトウモロコシと時間が全然違うじゃないか、と思われるかも知れませんが、ガソリンと言うのは値動きが大きく、この間の上昇でもほとんどの方には致命的な上昇となりますので、あえて短くしています。

実際の損失の額で言うと、9月27日から10月18日にかけて、損失が1枚あたり、74万円くらい増加している計算になります。このときの証拠金は13万5000円だったと思いますので、いかに大きいかが分かります。この時は、投下している資金の5倍以上です。

やっぱりキツイですね。

大切なことは、損失を小さく確定できなかったらどうなるか？ということです。

たった2つの例をお示ししました。いつもこうなるとは限りません。

しかしこうなった時に、その取引をしていたら・・・

おそらく資金的にも、精神的にもかなり大きいダメージを受けます。  
悪くするとその後の取引を諦めないといけないかも知れません。  
そうならないように、常に損失を小さく確定するのです。

本当にいつも。

これまで書いてきたことを、良く読んでください。

もう一度繰り返しますが、全ての大きな損失は、最初のごく小さな損失です。  
不思議なことに投資家は小さな損失でさえ、確定することを避けます。  
その先に、小さな損失が確実に大きな損失になることも忘れて。

ここではっきり言っておきます。  
小さな損失を受け入れられないようでは、投資で利益を上げることはできません。

ぜひ小さな損失を受け入れ、確定しましょう。  
そうすることで大きな損失を避け、資金を保ち、投資を続けていくことができます。

そうして続けることで、利益を上げるチャンスがめぐってきます。  
そのチャンスは、確実にものにしましょう。

ここではチャンスの活かし方については触れません。  
なぜなら利益を上げるためには、まず損失を減らすという考え方が非常に大切だと考えるからです。

極端に言う、きちんと損失を管理し、減らすことができると、自ずと利益は上がってきます。  
ですから利益を上げる方法については、損失の管理ができてから、ぜひお考え下さい。

でもあなたは思いますよね。  
どうやって損失を小さく抑えればいいのか？  
具体的なことが、分かりませんよね。

具体的にお教えします。  
それは取引を開始する前から、損失を決めておくんです。

「???'」

どういう意味か？

取引を始めるとき、一般的に投資家は幾らで買うか？（売るか？）は考えますが、幾らになったらいったん諦めて、取引を止めるかは考えていません。

例え考えていたとしても、実行できていません。

ですから、あらかじめ取引の前に、諦めて損失を確定する価格を決めておき、取引開始と同時に注文を出せばいいのです。

この注文は具体的には逆指値、あるいはストップと呼ばれる注文の仕方です。

注文さえ出しておけば、あなたの予想と裏腹に損失が出始めたとしても、自分が考えている小さい損失で抑えることができます。（当然急激な価格変動等で予定通りいかないこともありますが、それは誤差とするしかありません。）

そしてまた新たなチャンスを待てばいいのです。  
チャンスは必ずやってくるのですから。

注文をその時になって出そうなんて思っていたら、出せませんよ。  
本当です。

人間は楽な方に流れます。  
損失などという、苦しいものからは逃げようとします、そうして逃げたらもっと大きな苦しみになることを忘れて。

具体的に諦めるポイント（価格）を決め、逆指値で注文を出しておきましょう。

そしてもう1つ大事なポイント、それは常に損失をあなたの資金の2%以内に抑えることです。

さあ今計算してみてください。

あなたの資金の2%を。



## 2割の勝組になる7つの法則

すごく少ない金額ですよ。  
でもそれくらい、厳しく損失を管理しなければいけません。

そうしないと、あっという間に資金は減っていきます。  
そして取引そのものが出来なくなります。

しかし1回あたりの損失を2%以内に抑えらるとどうなるでしょう。

1回損失を出しても、98%の資金が残されています。

ということは、同じ失敗をあと49回出来ることとなります。(実際には資金が減るのでそうはいきませんが。)

考えてみてください。

たとえばコインを投げて、表か裏か、どちらが出るか、試したときに、50回連続で表(あるいは裏)が出続ける確率は・・・

これは限りなく0に近いです。ほとんどあり得ない、ということです。

取引においても同じです。損失を**50**回続けること、これはあり得ません。

続けるうちに、利益も出ます。

また利益が出ないようなら、少なくとも取引をやめて、やり方を検討しなければいけません。

1回の損失を**2%**以内に抑えるということは、そういうことを意味します。

あなたの気持ちと資金に余裕を持たせる、それが**2%**の損失の意味です。

ぜひよく考えて身につけてください。

もう一度言います、損失が出てから対処を考えてはだめです。

必ず感情が邪魔をして、損失をそのまま放置する 때가 来ます。

そうなった時にあなたの資金、精神はダメージを受けます。

時には取引を続けられなくなります。

そうならないように、あらかじめ損失を確定するポイント（価格）を決め、実際に注文を出してしまいましょう。

そしてその損失は常に資金の2%以内に収まるようにしましょう。

ここまで読んで、思う人もいると思います。

「確かに、損失を限定するのは、大切なようだ。だけど、市場に存在する情報は、どう捉えて、活かしていけばいいのか？」と。

確かに、市場には様々な情報が、存在しています。

ある情報は、あなたの取引を正当化するのに十分なものがあるかも知れません。

しかし、現に価格は動いているのです。

ある時には、市場でささやかれている情報とは、全く反対方向に動いているかも知れません。

そんな時に、自分の決めた、損切りのポイント（価格）に届いた時は、迷わず確定することが必要です。

情報はそれ自体の真偽が分かりません。例えそれが正しかったとしても、市場の評価が反対方向に価格を動かせば、それは反対方向の材料だということです。

ぜひ情報に固執せず、価格の動きを良く見てください。

それが損切りのポイントに到達すれば、確定しましょう。

しかも、その損失を資金の2%以内に抑えましょう。

それには、取引が開始されたら、すぐに損切りの注文を出すのが一番です。

そうすることで、損失を小さいうちに確定することができます。  
損失を小さいうちに確定すれば、大きな損失には至りません。  
これが「上手に損する」方法です。  
しっかり身につけて実践してください。  
そして利益を上げましょう。

第2の法則は「上手に損する」です。

### ◇第3の法則 小さく取引する

「小さく取引する」  
またよく分からない法則だなど思われたと思います。

はっきり言います。  
あなたが毎日取引している量は大きすぎます。

そうかなー、そんなに多くないけど、と思われましたか？  
では聞きますが、何株（何枚、何ドル）買うか（売るか）、あなたは どうやって決めていますか？

ほとんどの人が、ただ何となく決めていいるのではないかと思います。  
実際私はそうでした。

でもそれではダメです。  
第一にそれでは全く計画ができません、コントロールもできません。  
実はどれくらいの量を取引するかということは、非常に重要であるにもかかわらず、実際の取引の現場では、あまりにも軽視され過ぎています。

私は今から振り返って考えたときに、取引において一番大事なことはこの「取引する量をコントロールすること」ではないかと思っています。

せっかく「上手に損する」ことを覚えても、ただ何となく取引しては片手落ちになります。  
ではどうしたらいいのでしょうか？

答えは「上手に損する」ことに関係しています。

というのも、損失を2%以内に抑えましょうと言いました。

その考え方に常に立っていると、自ずと取引量は決まってくる。

つまり、自分の資金の2%を計算し、それから逆算して取引量を計算するのです。

例えば、今あなたは100万円の資金で、株式を取引しているとします。

株価100円の株を何株買うか、検討しています。

あなたは100円の株が90円に下がったときに損切り（損失を確定して取引を終了すること）すると決めました。

100万円の2%は2万円。1000株取引したときの損失は1万円（1000株×（100

円-90円) =10000円) なので、この場合、損失を2%まで許すとしたら、2000株まで取引して良いこととなります。(ただし手数料と税金の関係で若干2%より拡大することになりますが) この考え方を取ることで、取引量を常に計算することができます。

それでは、今何か実際取引している人は、ぜひ自分の取引に置き換えて計算してみてください。いかに自分が大きく取引しているかが分かるはずです。

この「取引する量をコントロールする」という考え方は、現物株よりは信用取引の方が、さらに商品先物や、為替取引といったレバレッジがかかる商品になると、より顕著にその影響が現れます。

実際取引量が多いという理由だけで、取引を諦めなければならないというケースも少なくありません。

これは、私が商品先物取引で、たびたび経験したことです。

取引する量が多すぎるために、損失が巨大になり、ひいては資金全体に悪影響を及ぼし、不本意ながら、損失を確定する、といった繰り返しでした。

でもこれは、最初からこの「小さく取引する」という考え方に立っていれば、自分の納得のいく所まで、取引できたはずで

ぜひ一度、ご自分の取引全てを見直してみましょ

そうすることで初めて損失をコントロールできるようになります。  
逆に言うと取引量をコントロールすることなく、損失はコントロールできないの  
です。

ぜひ真剣に考えてみてください。  
本当にこの考え方は大事です、しかも先程言った通り、まだまだ軽視されています。

第3の法則は「小さく取引する」です。



## ◇第4の法則 ルールを作る

「ルールを作る、難しいと思われませんか。  
確かに難しそうな響きがあります。  
第一自分に出来そうな気がしません、それほど近寄りがたい表現です。

でも実は単純で、あなたも別の分野では実践していたりします。  
ただ株式や商品といった相場の世界で「ルールを作る」なんて言われたら、途端に  
「自分には無理だ」と思うのです。

さあそれでは、簡単に理解してみましょう。  
ルールを作るとは、簡単に言えば、以下のような流れのことを指します。

- 自分で取引の仮説を立てる。（自分で取引のシナリオを描く。）  
↓
- 仮説（シナリオ）に従って取引を開始する。  
↓

## 2割の勝組になる7つの法則

- 取引の経過を見る。利益が出ているのか、損失が出ているのか。  
↓
- 検証し、対応する。損切りが必要なら損切りする。利益は伸ばす。  
↓
- 再度、仮説（シナリオ）に従って取引を開始する。

これで、最初に戻りました。

すなわち、一連の作業をずっと継続すること、これが「ルールを作る」ということです。

これは一般の会社でも、取り入れられていることと同じだと思います。私も前職の営業の仕事の時に、ほぼ同じことを言われていました。

すなわち

- **Plan**（計画を立てる）  
↓
- **Do**（実行する）  
↓
- **See**（見る）  
↓
- **Check**（検証する）  
↓

○ **Reaction** (対応する)

という一連のサイクルです。  
表現は違いますが、意味は同じことですよね。  
難しく考えず、自分なりの仮説を立てたり、シナリオを立てたりしてみましよう。

そしてそれを、取引の終了までイメージして、その時々において必要となる対策  
(実行すべきこと)を考えておきましょう。  
これを具体的な数値レベルで、できるだけ細かく様々なケースに対応して想定し、  
決めておくことで、詳細な取引のルールを作ることができます。

これがすなわち 「ルールを作る」と言うことです。

ここまで言うと、こういう方がいらっしゃいます。  
「それは分かっているから、その内容を教えてほしい」と。

でも本当に、まず「ルールを作る」ということがどういうことかを理解して欲しい  
のです。  
ルールの細かい内容を決めるのは、その先の作業です。

## 2割の勝組になる7つの法則

そして「ルールを作る」ということが本当に理解できれば、ご自分でルールの内容を作ることができ、さらに日々検証し、改善していくことが可能です。

難しく考えず、ご自分のルールを作り、チャレンジして、そして結果を検証し、必要であればルールを見直し、取引を継続してください。

もう1つ重要なこと、それはせっかく作ったルールは徹底的に守ってください。  
それができなければ、あなたの取引全体が狂い始めます。

ぜひルールを作り、それを守って取引し、そして検証し、必要であれば見直して行  
きましょう。

第4の法則は「ルールを作る」です。

## ◇第5の法則 人に聞く

「人に聞く」、それが法則か？と思われるかも知れません。  
お言葉ですが、これも難しいですよ。

特に取引には自分のお金に関係しています。  
なかなか人の意見で、取引しようという気にはなりません。

特に個人投資家は、始めは期待に胸一杯で、はやる気持ちが抑えられませんので、  
何とか自分でやってやろうと思っています。

でも良く考えてください。  
例えばスポーツを新しく始めるとき、あるいは英会話を始めるとき、あなたは自分

の力だけでやってみようと思うのでしょうか？

おそらく絶対に思わないでしょう。

スポーツであればコーチに、英会話であれば英会話スクールの先生に教わるはず  
です。

株式や商品先物の取引でも同じですよ。

いや、自分のお金に関係しているからこそ、もっと慎重であるべきです。

ですが、なぜかこの投資の世界においては、自分の力だけで始めようとする方が多  
いのです。

しかも悪いことに、分からないことや、疑問があるのに、それをそのまま放ってお  
きながら、取引を開始したりします。

本当に私はこの典型でした、全く一人でやってました、だから損をしたんだと思  
います。

なぜそうなのか、と考えてみますと、

1つには、身近にそういう見習うべき人がいない、ということがあるかも知れませ  
ん。

## 2割の勝組になる7つの法則

あるいは、どうしても自分のお金に関係することなので、最初から最後まで自分でやりたいのかも知れません。

私は4年間投資をしてきて、やっぱり聞くべきところは、人に聞いた方が良いと思います。

きちんと探せば、自分の投資スタイルに合いそうな人、尊敬できる投資家、自分が上げようとする実績を上げている人は必ずいるはずです。

今では、インターネットというツールがあり、輝かしい実績を上げている人も大勢います。ぜひ自分で探してみるといいと思います。

何も私が言っているのは「直接その人に聞け」ということではありません。その人のセミナーや講演会に参加するとか、本やサイト、レポートといったものを読む等色々手段はあると思います。

そうして納得が得られてから、取引する方が断然効率がいいはずです。ぜひ良く考えてみてください、そして素直に聞きましょう。それがあなたの資金を守るためなのですから。

実はもう一つここで話しておきたいことがあります。  
確かに自分の分からないことや疑問を、誰かに聞くことは重要です。

それ以外にもう一つ、耳を傾けていただきたいものがあります。

それは、価格です。

「はあ???'」と思われませんか？

どういうことかと言いますと、価格の動きはただの客観的な事実です。  
しかしその裏側には、確かにその市場に参加する、大勢の投資家の心理や行動が反映されていると思います。

例えばある時、底値を付けた後上がり始めた銘柄があるとします。  
そこには確実に買っている人が存在するのです。

その人が何かを知っているのか、そうでないのかは分かりません。  
しかし価格が上がり始めるということは、誰かが買い始めているということの意味します。  
ですから、先入観を持たずに価格の変化に耳を傾けて欲しいと思います。



「何かあるんじゃないか？」

この気持ちだけで結構です。そうしてその後の価格を観察し、いつかあなたが何かに気がついたときには、取引を始めればよいと思います。

ぜひ価格にも、耳を傾けて欲しいと思います、少し分かりにくいかとは思いますが。

第5の法則は「人に聞く」です。

## ◇第6の法則 取引に学ぶ

これはあまり疑問に思うことはないと思います。  
日々の取引を重ねる中で、様々なことが起こります。

感情の変化や、それに応じた行動の変化、時にはそれが結果に影響を及ぼすこともあると思います。

ルールを決めているつもりでいながら、そのルールに従えない等。

自分が理想とする取引に到達するのにも、かなりの時間を要すると思いますし、例えそれが構築できたとしても、それを実行するのにまた時間がかかります。

また市場は常に一定の環境ということはありません。逆に常に変化していると言ってもいいと思います。  
ならば投資家も変化するしかありません、いつでもどこでも利益をあげるために。

常に取引の中で起こることから学び、そして改善して行きましょう。  
経験しないと体得できないもの、というのも確かに存在すると思います。

ぜひ毎日の取引の中から学び、そして強くなっていきたいと思います。

第6の法則は「取引に学ぶ」です。

## ◇第7の法則 継続する

「それが最後の法則?」、そう思いましたか？

そうです、これが最後の法則です。

でも本当に取引を始めたら分かりますが、これがまた難しいと思います。

「継続するっていつまで?」と思いますよね。

では、私からお聞きします。

あなたはいつまで投資を続けられますか？

一番分かりやすいのは、第1の法則で出てきました、目的とする金額を得ることが出来るまで、というものだと思います。

1億円を株式投資で手にしたいと思っていた人が、1億円稼いだ時とか。

あなたはいかがでしょうか？

逆に目標・目的があれば、それが達成できるまで続けるということですし、もしなければ一生ということなのではないでしょうか？

何にしてもあなたが納得いくまではずっと、ということになります。何事も続けて行くのは、難しいです。特に投資の場合は自分の資金が減るときが必ずありますので。

自分の資金が減り続ける中でも継続しなければなりません。そうでないと利益は上げられないのですから。これまでお話してきたことを、充分理解し身につけ、そして利益を上げる取引を確立して欲しいと思います。それが確立できた時には、正しく継続することで利益が上げられます。

ぜひ利益を上げ、楽しく投資をしていただきたいと思います。確かに継続は力ですし、経験も力です。

第7の法則は「継続する」です。

松下誠は、現在1500名を超える人にFXウィークリーレポートを有料にてお届けしています。この有料レポートは松下誠が現在、注目している銘柄、買っている銘柄を毎週日曜日に、どのチャートパターンが出たら購入しているのかをチャート画像に矢印をつけてお届けしています。

このレポートは実際に松下誠が買っている銘柄と同じ銘柄を買うこともできて、松下誠の投資法（どのタイミングで買って、どのタイミングで売る。さらに利益を伸ばす方法）を真似ることから、自らの力に変えていくことができるように作られたプログラムです。

このFXウィークリーレポートは30日間お試ししていただけるため、30日以内のキャンセルは全額返金する保障もつけております。

さらに特典として2007年2月1日現在、松下誠は自らの投資法をすべて公開したDVDを12本無料でプレゼントしています。

<http://www.123profit.jp/>

【特別付録】

◇ 松下誠の取引

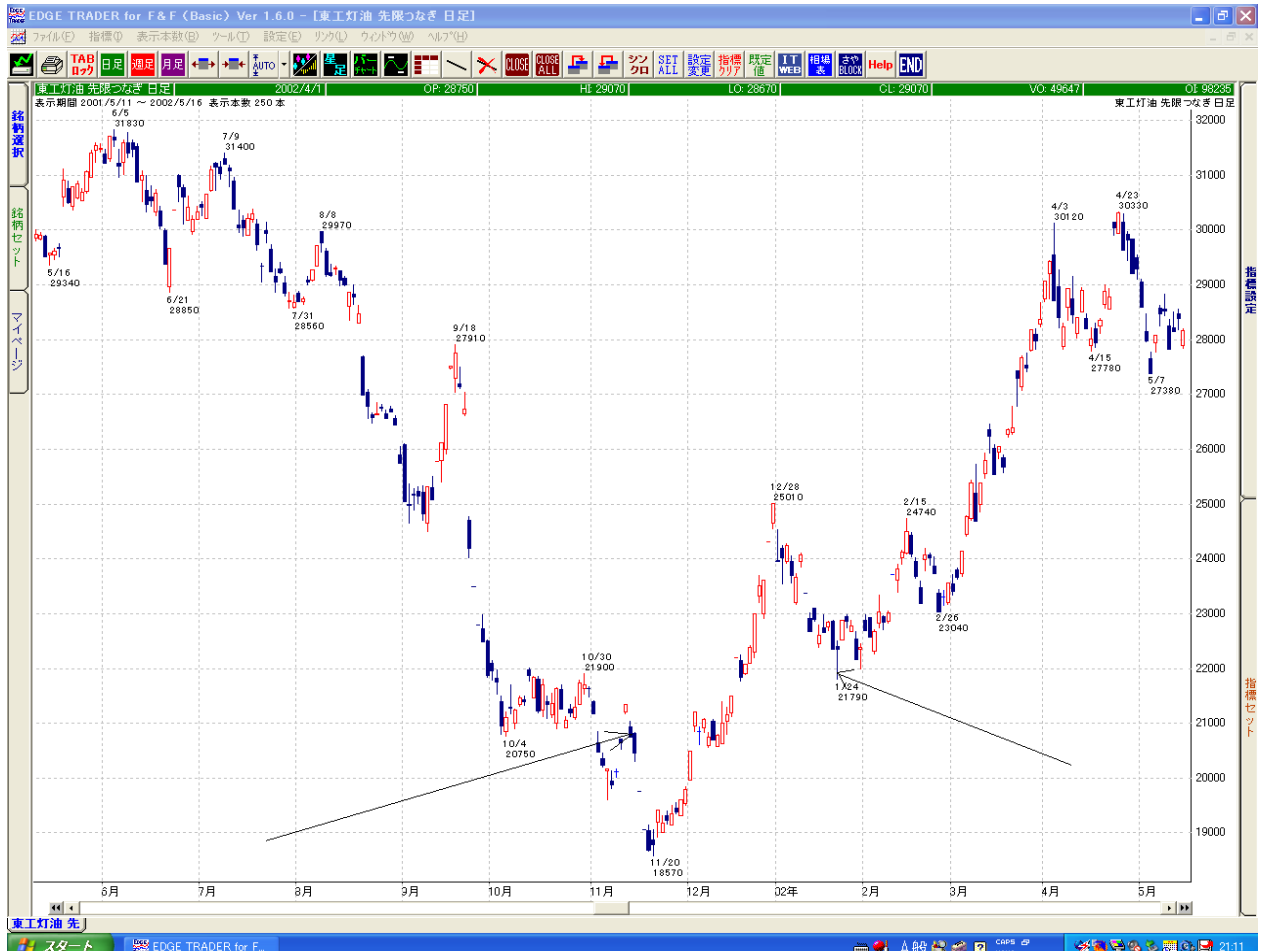
1. 思い出したくもないデビューでの大失敗 ～灯油編～

まず松下自身の取引として、先物取引でのデビューとなった灯油の取引を見ていただきます。タイトルにある通り、大失敗で思い出したくもありません。

しかしこの取引で松下はスタートしたのです。  
多くの学ぶべきことがあります、ぜひご覧になってください。

まずはチャートをお示しします。

## 2割の勝組になる7つの法則



松下は**2001年2月**にまず現物株式の取引を始めました。それも全く勉強せずに始めたので損ばかりしていました。

そんな中、どうしても何かを掴みたい思い、商品先物の世界にも足を踏み入れました。きっかけは商品先物の商社主催のセミナーで、そのセミナーに出席した後、口座を開設しました。

ここでも株の時と同様、ほとんど役に立つ勉強はしていませんでした。  
(こう書いてみると失敗したのも当たり前ですね) (ToT)

さて当時担当者から、灯油がいいと言われ、資金を105万円口座に用意しました。  
当時の灯油の証拠金(先物取引において1単位当たりの取引に対して用意しなければならない保証金)は1枚当たり105,000円、すなわち10枚分の用意です。

そして11月13日に電話で「今日安いのでどうですか?」という言葉だけで灯油を10枚買いました。(チャートでは左に伸ばした矢印が11月13日です)

これが全ての始まりです。今では信じられないことですが、105万円の資金全てを使って、105万円の取引をしたのです、本当に!!

当日、翌日と若干価格が下がったくらいでした。

問題は2日後からでした。11月15日は朝から一日中、灯油はストップ安(値幅制限一杯に下がること)でした。

夕方担当者から電話がかかってきて(当時は私は会社員で営業をしていました)「翌日の朝一番に追証(取引を続けるために必要な資金の追加)として52万5000円入金できなければ松下さんの資金はほとんどなくなります」と言われ、頭が真っ白になりました。

何とか妻に話してお金を工面し、翌日入金しましたが、灯油の値動きは全く止まらずに毎日下げ続けました。



当然毎日追証の工面が続きました、もう本当に生きた心地がしないとは正にあのことです。

結局灯油を買ってから、5日間下げ続け、11月20日にやっと止まりました。この時までに口座に入金していた資金は合計で350万円を超えていました。

100万円で始められる、そんな甘い気持ちで始めたら、たったの5日間で400万円弱が必要になり、しかもいつ資金が底をついて、0になるのかハラハラしながら過ごしていました。

そして11月21日から状況が変わります。チャートを見ていただいても分かりませんが、11月20日を底値に灯油の価格は上昇を始めました。それも連騰で、かなり急騰に近い上がり方をして行きました。

いつしか私の取引の損失（計算上の）も消え、そしてとうとう利益が出始めました。

自分でも信じられませんでした。毎日毎日自分の取引の評価額（利益）が上がって行ったのです。

そして迎えた12月25日、正に有頂天の中で迎えたクリスマスでした。その時の口座の評価額（利益）は400万円！！信じられませんでした。一番安値から考えると、1ヶ月で750万円の利益が出る計算です。そのために必要とされる資金は証拠金の105万円のみ。

1ヶ月前には、明日をも知れずハラハラしていたのに、一転400万円の利益を生んでいたのです。しかしこの時は利益を確定できませんでした、何せ「まだ上がる」と根拠もなく思っていたのです。

## 2割の勝組になる7つの法則

そして価格は下がり始めます。

どうせまた上がるだろうなどと、のん気に考えていたら、価格は下がるばかり、利益も減り続けます。全く上がる気配のないまま「もう損失になるのは嫌だ」と取引を終えたのは1月24日、正にその時の安値だったのです。

その取引で70万円の利益を得ました。初めての先物取引で105万円使って、70万円の利益、この結果だけ見れば、悪くなさそうです。

しかしチャートからの振り返り、取引を開始してからの感情の変化、並びにそのために起こった生活上の出来事、全てを考えた時、この取引は誰の目から見ても大失敗です。

失敗の一つずつを解説するのも嫌になりますが、松下自身の後学のためにも、あえて触れてみます。

まず取引に当たって、大きな2点の失敗をしています。

1. 取引量が資金に対して大き過ぎる。
2. 損失の意味において、コントロールができていない。何が起こりえるか分かっていない。

この2点に関しては「7つの法則」のうち、第2、第3の法則を用いることにより、回避できます。

そしてチャートからの振り返りでは、11月13日の取引開始はともかく、損切りのポイントが全く設定されていない。またすごく小さい値動きの振幅の中で取引を終始している。ということが反省されます。

全てを総合して振り返ると「ほとんど無茶な賭けで、運よく続けることができただけ」そんな取引ですね、これは。

でも当時の松下の取引はこうでした。

2.この取引から松下の復活は始まった ～小豆編～

株式投資を始めて2年余り、先物取引を始めてほぼ1年、そんな2002年9月に松下の商品先物の口座の残金は16万円でした。

16万円、もうあと一回取引ができるだけ、そんな資金です。

いいえそれどころか、一回取引しても、せいぜい取引そのものを止めてしまうのを先延ばしにするだけ、本当にそんな資金でした。

でも私は諦めていなかった、とにかくこの“マーケット”と呼ばれる世界が好き

## 2割の勝組になる7つの法則

になり、絶対この世界でやって行こうと心に決めていました。  
そんな時に会ったのがこの小豆の取引です。  
それではまずチャートをお示しします。



この頃この小豆という銘柄を売りたいと狙っていましたが、しかしこの頃はまだ取引の精度も甘く、自分のシグナルを正確に判断できず、この日も取引終了後にデータをまとめて、自分のシグナルが出ていたことに気がつきました。

そして**2002年9月4日**、左の上方の矢印で示された日ですが、迷うことなく小豆

を1枚売りました。この時の証拠金は6万円、あと口座の残金は10万円でした。

しかしこの取引はそれまでの取引とは明らかに何か違っていました。

翌9月5日は私の取引とは反対に、わずかに価格は上昇しましたが、9月6日以降急落、二度と価格は戻らず、利益は増える一方でした。

「これがトレンドに乗るという事か」と感じたことを今でも覚えています。(トレンドについては後ほど解説)

そして10月18日(右上方の矢印で示した日)一旦利益を確定します。

このときの利益は11万5000円、証拠金が6万円でしたのできっちり利益は取れました。しかしすぐにその判断が誤りだったことが分かり、10月31日(左下方の矢印で示した日)に再度1枚を売りました。

この取引は12月12日(右下方の矢印で示した日)に利益を確定し、取引を終えました。この取引での利益は3万7000円。

## 2割の勝組になる7つの法則

こうやって後から見ると、色々間違いがあるとは思いますが、それでも明らかにその頃の取引とは質が違いました。この取引の経験が、後の利益につながっていったのだと今では思っています。

◇トレンドとは ～取引において最も大切と思われる考え方～

トレンドとは、直訳すると傾向とか動向といったような意味です。私は簡単に流れとか雰囲気といった風に解釈しています

要は、価格が上がって行っているのか、下がって行っているのかその傾向です。

しかし、これをチャートで見ると、ある期間のトレンドは正確に知ることができます。

そこで、チャート（次のページにお示しします）で説明してみます。

これは東京ガソリン、日足のチャートです。トレンドの確定のためには4つのポイントが必要になります。

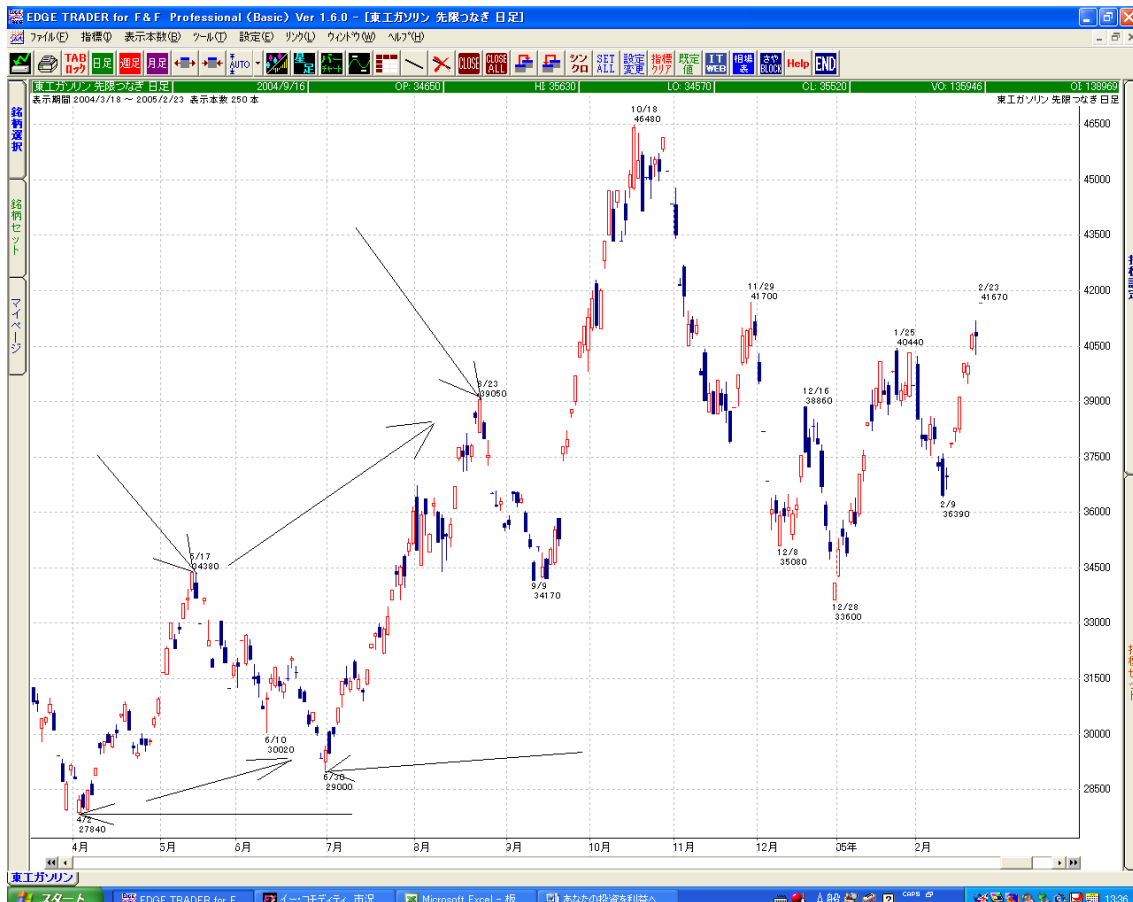
## 2割の勝組になる7つの法則

チャート上矢印で示してあります。

すなわち連続する**2**つの安値と、その安値からスタートする**2**つの連続する高値です。

次ページのチャートで言うと、**4月2日**に安値をつけ上昇し、**5月17日**高値をつけ下落に転じます。そして**6月30日**に次の安値をつけ、再び上昇開始、**8月23日**まで上昇を続けています。

## 2割の勝組になる7つの法則



すなわち連続する安値、4月2日と6月30日で6月30日が高くなり、連続する高

値、5月17日と8月23日で8月23日が高くなっています。

安値が高くなり、高値が高くなっています。

これでアップトレンド（上昇トレンド）が確定です。

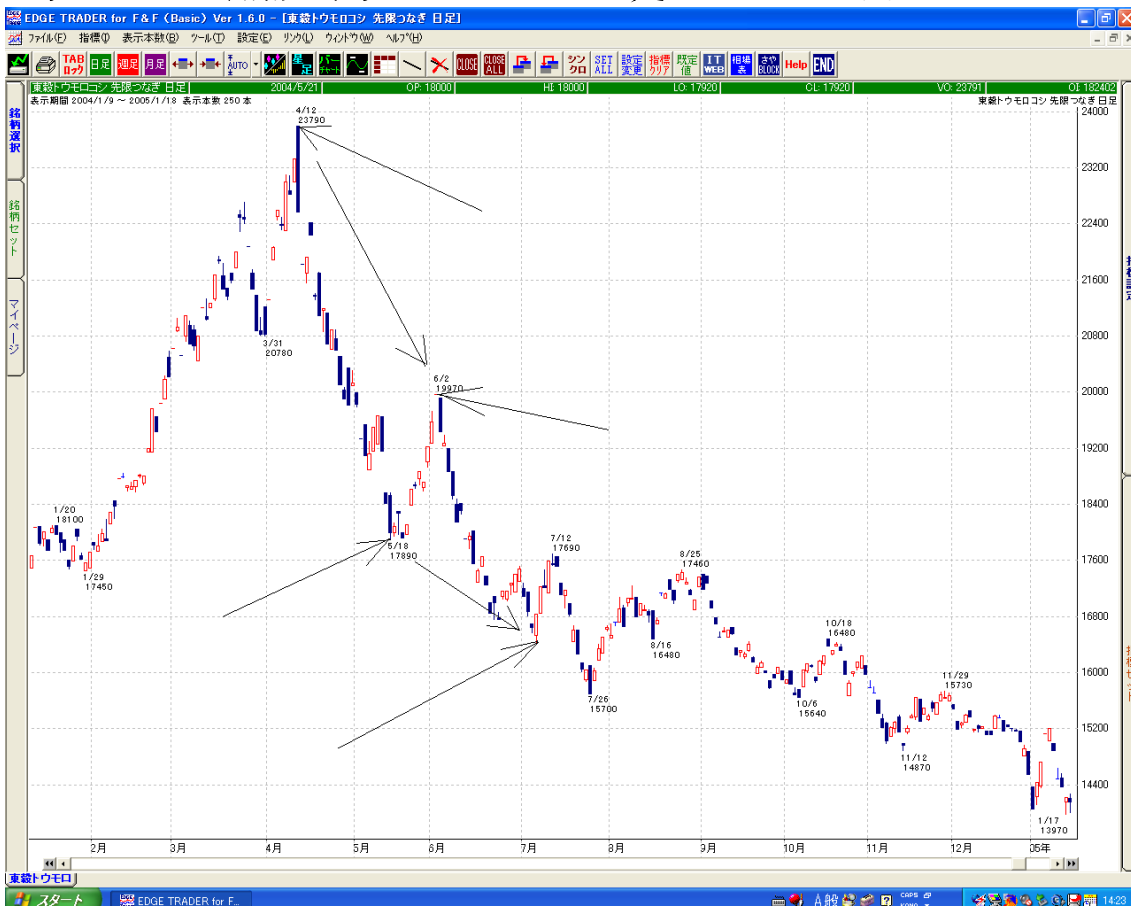
ダウントrend（下降トレンド）とは、先程の逆で、連続する高値、安値共に下が



## 2割の勝組になる7つの法則

っている場合がダウントレンド（下降トレンド）です。  
こちらは次ページのチャートでお示ししています。

お示ししている銘柄は東京トウモロコシ、日足のチャートです。



ダウントレンドの確認の順番は、連続する2つの高値が下がり、そしてそれに続く、  
2つの安値がともに下がるとダウントレンドが確定します。

このチャートで言うと、4月12日の高値から6月2日の高値へ下がり、5月18日の安値から7月26日の安値へ下がっています。  
これでダウントレンドが確定します。

もう一度言いますと、

アップトレンドは安値が上がって、高値が上がる。

ダウントレンドは高値が下がり、安値が下がる。

逆に言うと、安値と高値両者の方向が一致しなければ、トレンドは確定しないのです。

もし両者がばらばらの動きをとれば、トレンドは分かりません、次の機会まで判断を待ちましょう

さてこのトレンドが分かった時、実際の取引にはどう利用していけばいいんでしょうか。

私は基本的にはトレンドの方向と同一方向に取引をした方が、良いと思います。アップトレンドであれば買い、ダウントrendであれば売ることです。

取引手法として全く逆の考え方に立つ方法もありますが、効率的ではないと私は考えています。

ですからトレンドを判断し、そしてトレンドと同じ方向で取引します。出来る限り長く、大きな利益が取れるように。

トレンドと実際の取引に関しては、後ほど実例を出しています。ぜひ参考にしてみてください。

先程4つのポイントでトレンドが確定すると言いました。あの4点の取り方につきましては、時間的にも色々な取り方ができます。

今回の例は、いずれも日足のチャートでしたが、これを週足（しゅうあし）や月足（つきあし）で見るとまた違ったトレンドが見えてきます。トレンドを見るときには、ぜひ違う長さの時間もみてください。

また4点全てを確認してからの判断では、取引に対して遅すぎることもありますので、その時には別の方法を取り入れたり、ある程度見切りで取引を開始したりと取引のスタイルを変えることができます。

ここでは、そういった細かいことではなく、大きなポイント、トレンドという考え方とそれを利用した取引というものをイメージして欲しいと思います。

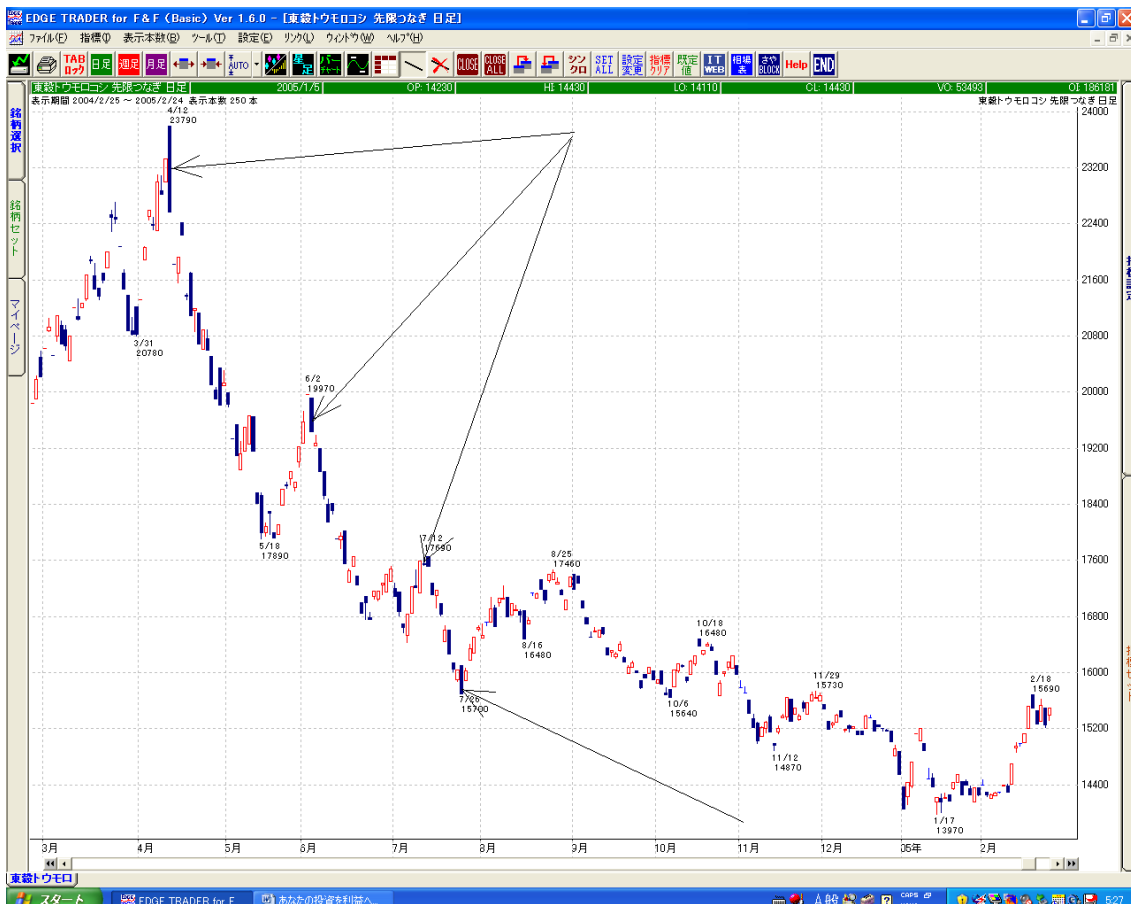
トレンドはすごく重要です。

それでは実際にチャートと実際の私の取引からトレンドの重要性を見てみたいと思います。

## 1. トレンドに従って上げた大きな利益 ～トウモロコシ編～

チャートは次にお示しします、東京トウモロコシの日足のチャートです。

## 2割の勝組になる7つの法則



この銘柄で、私は上の3つの矢印、4月12日、6月3日、7月12日にそれぞれ売りを1枚ずつ、持ちました。そして買戻しを入れたのは、3枚同時に7月26日でした。(下の矢印)

この3枚の取引に必要とされたのは、当時24万円(1枚8万円)の証拠金だけで、

利益は3枚で実に合計130万円でした。

4月12日に開始した取引は、私の4年間の取引の中でも最も利益の額、率ともに最高の取引で、金額にして72万円、証拠金の9倍の利益となりました。

この取引はきちんとトレンドに乗っています。  
しかもこの取引は、結果的に非常に理想的なタイミングで新しい取引を追加できた形になりました。

私の理想とする取引は、ほぼこれに近いものです。(念のために触れておきますが、これはここが売りのポイントですよ、というような解説ではなく、実際に私が売った日ですので。あまりにも理想的なのでビックリしていますが。)

これがトレンドを利用した取引ということになります。ぜひこのチャートのトレンドをよく見て、考えてみてください。  
自分だったら、どこでどういう風取引したいのかを。

では次に逆のケース、トレンドに逆らって、なおかつ損切りができなかったために被った、大きな損失の例について見てみたいと思います。

## 2割の勝組になる7つの法則

### 2.トレンドに逆らって被った大きな損失 ～灯油編～



これは東京灯油の日足のチャートです。（灯油には苦い思い出が多いです。）

取引を開始したのは、4月1日（下の矢印）で、1枚の売りを持ちました。

この時、私としては、灯油がもう随分高いので、その前の高値、3月24日の30710円は、超えないのではないか、というシナリオで売ったのです。

ですから当然、これまで述べてきた「第2の法則 上手に損する」や「第4の法則 ルールを作る」に照らし合わせて、私のシナリオが崩れた日、すなわち3月24日の高値を超えた4月16日（×印）に損切りをしなければいけなかったものです。

しかし、ここで私は先入観からか、損切りを行わなかった。  
そして結果がどうなったのか？・・・

そのままずっと損失を確定することができず、最終的に諦めた7月26日に損切りしました。

この取引での損失は、1枚のみで84万円、必要な証拠金10万5000円でしたので、証拠金の8倍という金額になりました。

これが私の4年間の取引の中で、損失の額、率ともに最も大きなものです。

こうやって振り返って見てみると、見事にトレンドに逆らい、そして損切りを無視したために被った大きな損失ということが一目で分かります。

ぜひあなたは、トレンドに逆らわず、きちんと損切りを実施されることを祈ります。



## 2割の勝組になる7つの法則

さてトレンドと取引の関係において、トレンドにのって、利益を上げた取引と、トレンドに逆らって被った損失について見ていただきました。

これを見ると、自ずとどういう取引をすべきか、理解できると思います。ぜひトレンドを良く見て、そしてそれに従った取引を目指してください。

### ◇ おわりに

私がこの4年間に築き上げてきたノウハウをここまでお話してきました。

いずれもすごく基本的なことで、どこにでも言われていることかも知れません。しかし、私もその事に気づき実践するまでに随分時間がかかり、多くの資金を失いました。

よく「成功したいときは成功者を真似ろ」と言われます。

私は成功しつつありますが、成功の度合いという意味ではまだまだ小さいと思います。

しかし、犯した失敗は大きいと思います。

それを皆さんに公表した上で、皆さんには本当に同じ間違いを犯してほしくないと思って書いてきました。

いつの時でも、同じ失敗、同じ成功は繰り返されると思っています。

そんな中で、私の話が一人でも多くの人のご理解をいただき、何かのお役に立てれば、これ以上の喜びはありません。

何より失った全財産、1,500万円も生きてくると思います。（^^）

ぜひ本書が皆さんの損失の軽減に役立ちますことを、そしてその上で皆さんが楽しく取引され、利益を上げられ、実りある豊かな人生を送られることを願って、私からの話を終わりたいと思います。

\* 本文中に引用しましたチャートは、インベストメントテクノロジーズ株式会社提供の **Edge Trader** というチャート分析ソフトからの引用です。

インベストメントテクノロジーズ株式会社のホームページアドレスは

<https://www.investechno.com/>です、ご参考ください。

このスペースを借りて、インベストメントテクノロジーズ株式会社に感謝申し上げます。

【参考図書】

マーケットの魔術師

新・マーケットの魔術師

マーケットの魔術師～株式編～

ジャック・D・シュワッガー著 **Pan Rolling** 社刊

魔術師たちの心理学

バン・K・タープ 著

**Pan Rolling** 社刊

タートルズの秘密

ラッセル・サンズ 著

**Pan Rolling** 社刊

【筆者紹介】

松下 誠 (まつした まこと)

1967年生まれ。福岡県出身。富山医科薬科大学卒業後、製薬会社勤務。

2001年にロバート・キヨサキ著「金持ち父さん・貧乏父さん」を読み、

株式投資・商品先物取引開始。開始2年間で当時の全財産1,500万円を

失うが、その後利益を上げるようになり、2007年2現在、1500名を越える

会員にFXウィークリーレポートを配信しながら投資教育・啓蒙活動等を行っている。

## 2割の勝組になる7つの法則

ご感想・ご意見はメールで

<http://www.123profit.jp/support/>

※本書の著作権は松下誠に属します。複製や印刷物の配布を禁じます。一切の有償譲渡、無償譲渡を禁じます。